

人生100年時代に生きる私たちの未来を拓く

— 高齢社会を自分事として捉えるための探究的な学習活動の工夫 —

1

地区代表校 岐阜総合学園高等学校
研究発表校 各務原西高等学校

発表内容

- I 研究のねらい
- II 地区研究の歩み
- III 本校の研究実践
- IV まとめと今後の課題

I 研究のねらい

高齢社会を自分事として捉える
探究的な学習活動の工夫

研究領域「高齢者の生活と福祉」

高校生が自分事として捉えるのが難しい分野

時間配分もあり深く考えさせる授業としてこなかった

普段の生活に密着していない

高齢社会を自分のことと捉え、今自分にできることを考える

探究的な学びで考えを深める

ロールプレイングや高齢者インタビューなどを通して課題と解決策を考える

Ⅱ 地区研究の歩み

長良高校と各務原西高校
共通

事前事後アンケート
ロールプレイング

6月 研究テーマ、内容の確認

7月 講演会と研究協議（会場：本巣松陽高校）

社会福祉法人和光会 ファミリーケア本巣

11月A研究授業と研究協議（会場：長良高校）

B研究授業と研究協議（会場：各務原西高校）

各校の授業実践の報告（学習プリントなどを用いて）

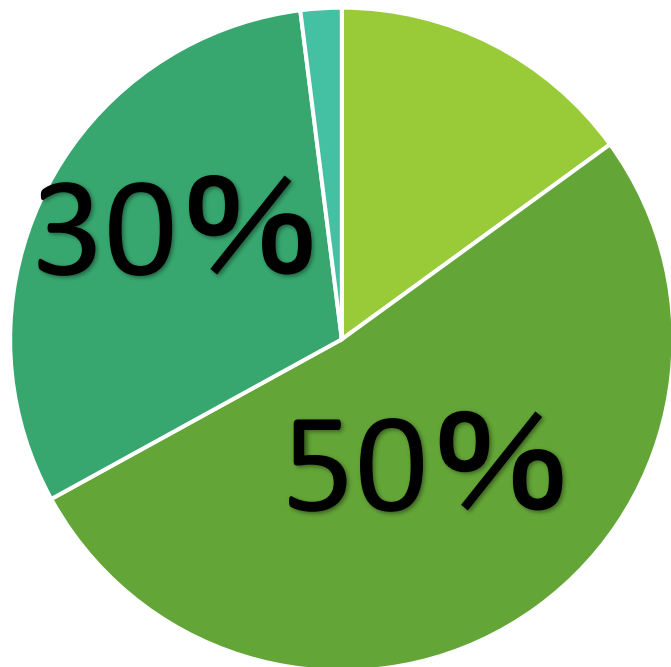
Ⅲ 本校の研究実践

- (1) 生徒の実態把握
- (2) 単元指導計画
- (3) 授業実践内容

(1) 生徒の実態把握

高齢者と接する機会が時々・
ほとんどない生徒が80%

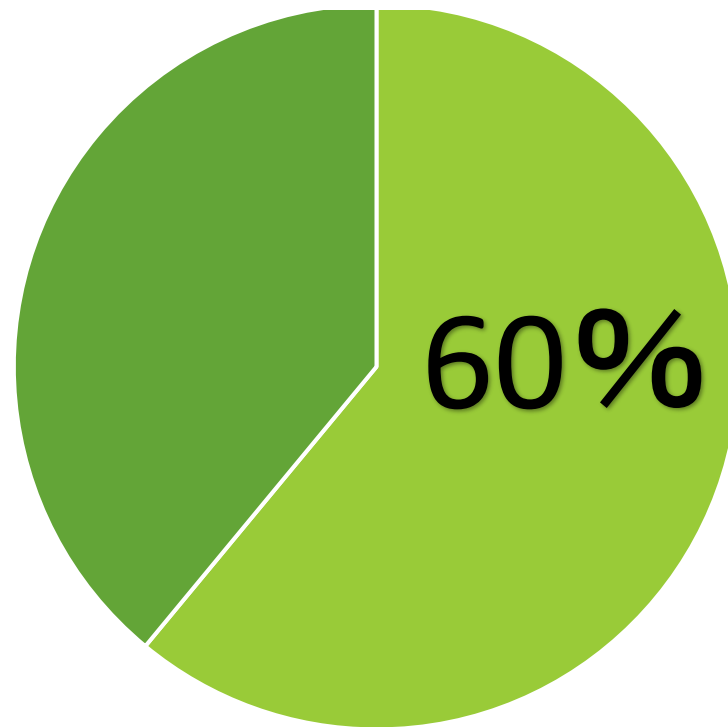
高齢者と接する機会



■ 毎日 ■ 時々 ■ ほとんどない ■ 全くない

60%の生徒が行動できている

高齢の方が困っていた時に、
声をかけたり助けたことがありますか。



■ はい ■ いいえ ■

行動できなかった生徒の理由

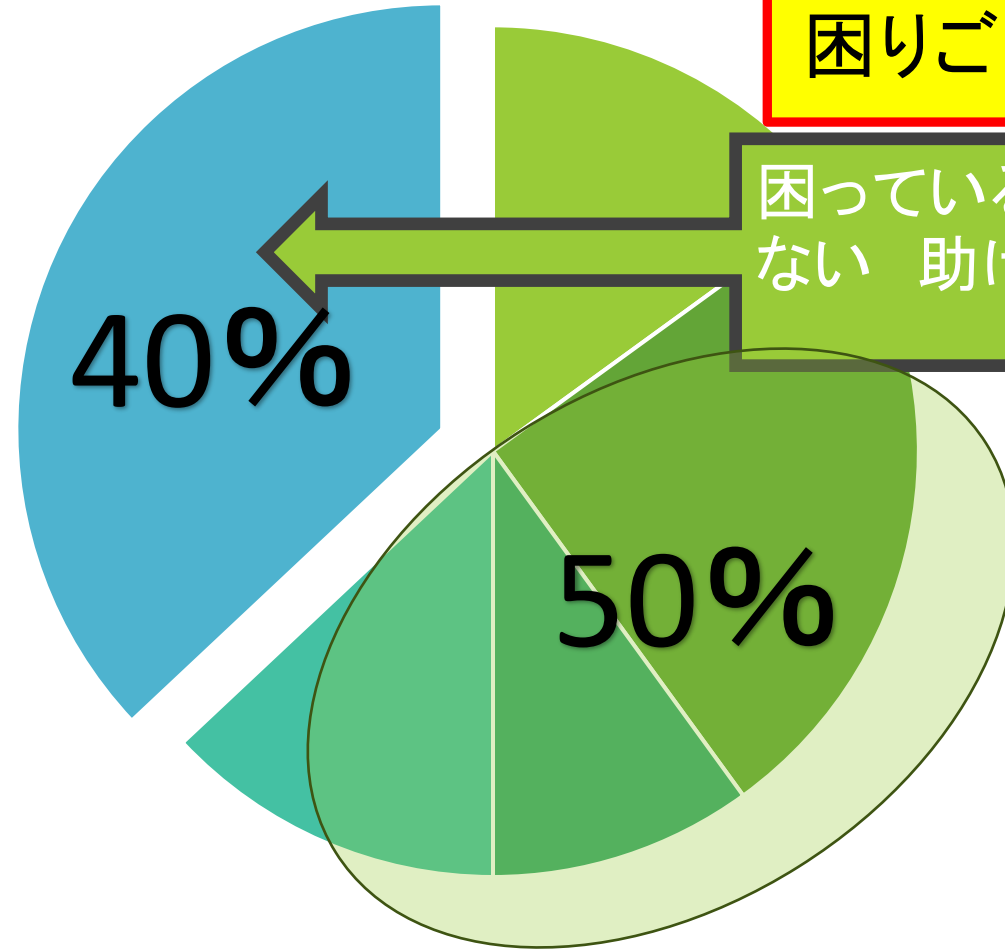
■ 急いでいた

■ 声のかけ方が分からない

■ 助ける方法が分からない

■ 1人では不安だった

■ その他



困りごとの内容を知る
困りごとに気づく力が必要

困っているところを見たことが
ない 助ける場面がなかった



育てたい生徒

- 他者に関心をもち、今必要なことに気づく生徒

- 自分から行動し、人を助ける力をもつ生徒



単元を貫く課題

- 超高齢社会を自分事として捉え課題意識をもつ
- 今、自分ができていることを考える

高齢者福祉分野の授業実践を通して

高齢社会を自分事として捉えるための工夫

- **ロールプレイング**の活用
- 人生の先輩 **インタビュー**

グループ活動

探究的な学びをするための工夫

- 「**問い**」作り

問いつくりのワーク

問いつくりのワーク(司書と協働 図書館)

1. 図書館の本棚の間を本を見ながらぶらぶら歩く
2. 気になることを書く
3. イメージマップにする
4. イメージマップから疑問文をつくる
5. 問いを5W2Hに分ける

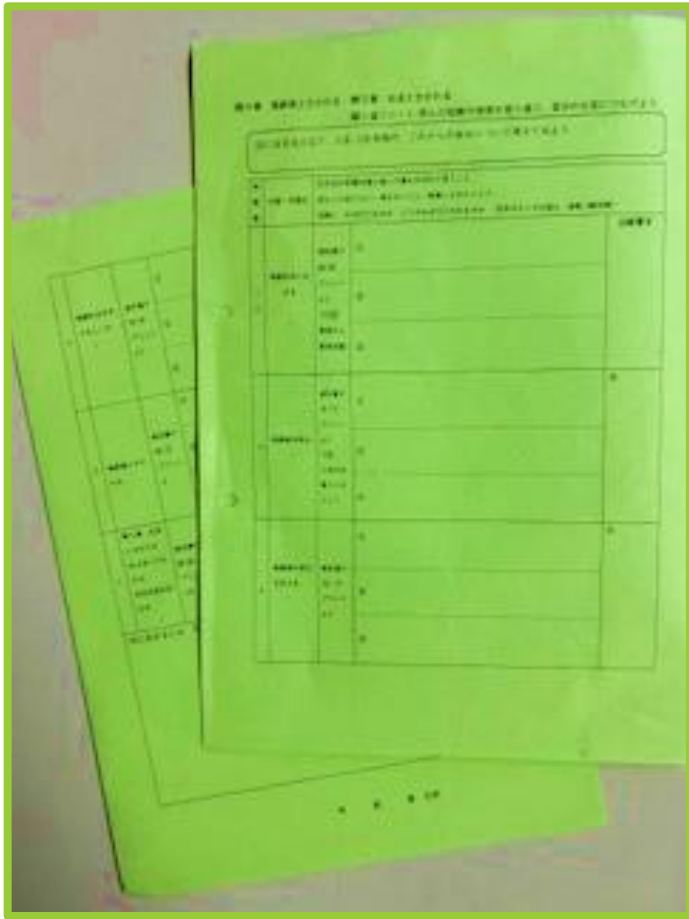
Why(なぜ?) What(何?) Who(誰?) When(いつ?) Where(どこで?)

How(どのように?) How much(どれくらい?)

6. 問いを見直す 問いチェック

振り返りシートの活用

「問い」作り



- ✓ 内容のまとめりごとに「問い」を書く欄を設定
- ✓ 生徒の問いが探究の起点に

(2) 単元指導計画

単元を貫く課題
超高齢社会を自分事として捉え課題意識をもつ
今、自分ができることを考える

1.2時間目	超高齢社会の現状や課題について理解する ロールプレイング
3時間目	高齢期の心身の変化、高齢者の生活その生 インタビュー
4時間目	高齢者の生活を支える介護について理解す ロールプレイング
5時間目	高齢社会を支えるしくみについて理解する ロールプレイング
6.7時間目	超高齢社会を自分事とし、課題を発見し、解 探究活動

(3) 授業実践内容1

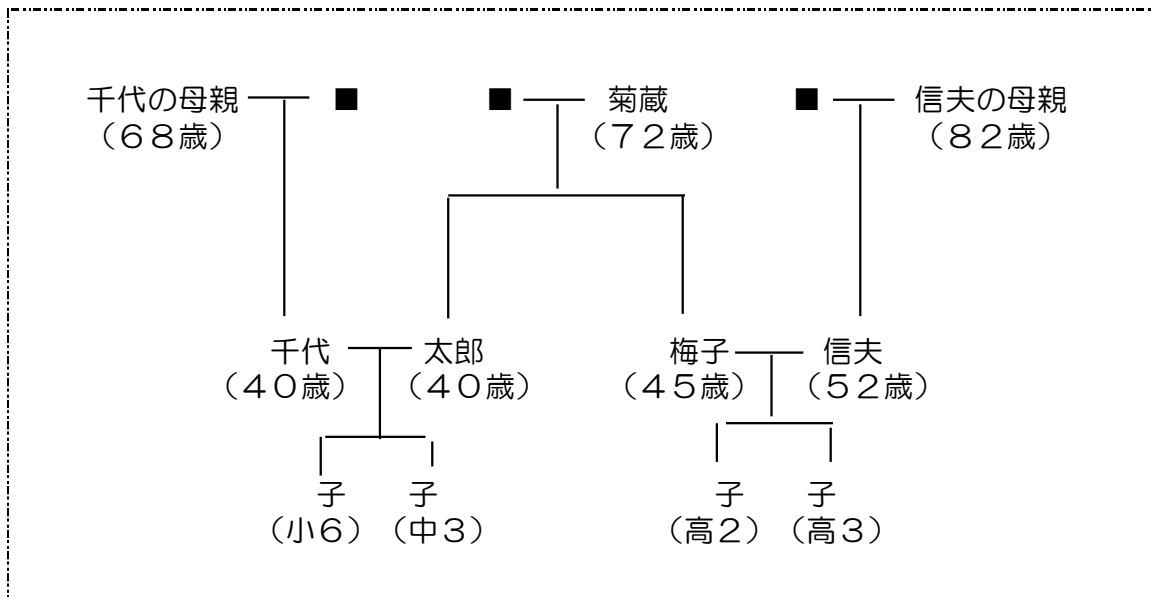
ロールプレイング

高齢社会の全体的な課題が分かる

菊蔵さんをめぐる家族会議

→ 振り返りシート1 項目目

菊蔵さんはどこで暮らしたらよいのだろうか



(3) 授業実践内容2

B 高齢者を知る

人生の先輩インタビュー

→振り返りシート2項目目

高齢期の生活を知る
困りごとに対し
私たちにできること
生きるヒントをもらう

家庭基礎 高齢者福祉分野 (インタビューする課題) 提出日: ①

人生 100 年時代に生きる私たちの未来を拓く 人生の先輩インタビュー
インタビューの心得

- その1 丁寧な言葉づかいで話す
- その2 うなずきや相づちで聞く姿勢を大切にする
- その3 フライバシーに配慮し、話したくないことは無理に聞かない

インタビューに答えてくださった方

お名前 (ニックネーム可)
年齢 (60・70・80・90・100歳代)
関係性 (祖父母・近所の方など)

※インタビューした内容をまとめましょう
<インタビュー項目>

- ①どのような一日を過ごしていらっしゃいますか
・一日の大体のスケジュール

②健康について

- ・健康のために気を付けていることはありますか
- ・若いころと比べて、体や気持ちにどんな変化を感じますか

③日常生活について

- ・不便に感じること、不安に思っていることはありますか
- ・こんなサポートがあると助かると感じることはありますか

④これからやりたいこと、目標などあったら教えてください。

⑤私にアドバイスをお願いします。

年 組 番 名前

生きるヒント:自分を大切にす る チャレンジする
規則正しく生活をする 学ぶことを大切に

(3) 授業実践内容3

ロールプレイング

高齢者の支え手となる

C 高齢者の自立を支える・高齢社会を支える仕組み

車いすの扱い方(動画視聴)

認知症の方への対応

認知症のおばあさん 名古屋へ行きたい
高校生3人で対応

正吉さんの介護【介護の担い手 介護保険制度】

→振り返りシート3項目目 4項目目



研究授業



授業内容 超高齢社会を自分事とし、 課題を発見しよう

研究授業

- 1.授業前 授業ごとに「問い」を立てる
- 2.「問い」を集める 振り返りシートの「問い」より
- 3.「問い」の決定
- 4.課題を発見する
- 5.「問い」をキーワードにする

授業展開①問いの整理 振り返りシートを振り返ろう

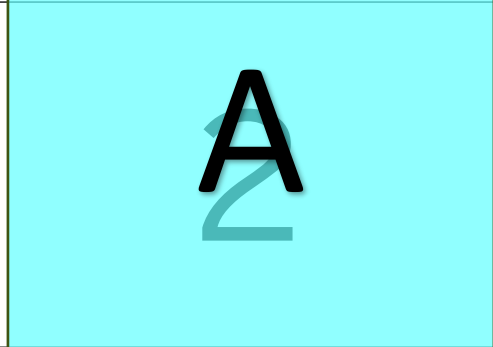
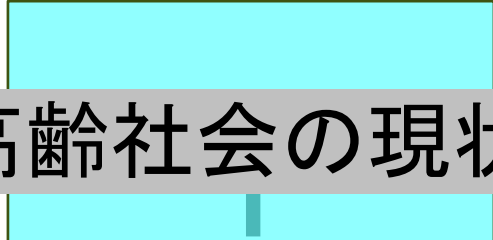
高齢者福祉分野全体の振り返りとする

- A 高齢社会の現状 菊蔵さんをめぐる家族会議
- B 高齢者の生活 人生の先輩インタビュー
- C 高齢者の生活を支えるしくみ
車いすの扱い方 認知症の方への対応 介護保険制度

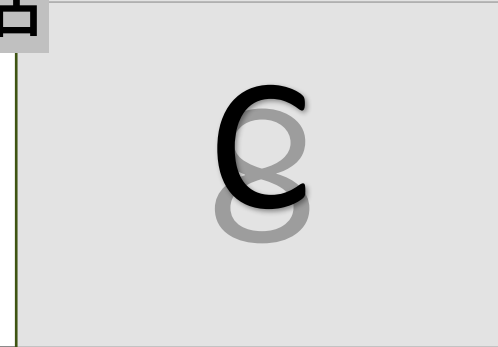
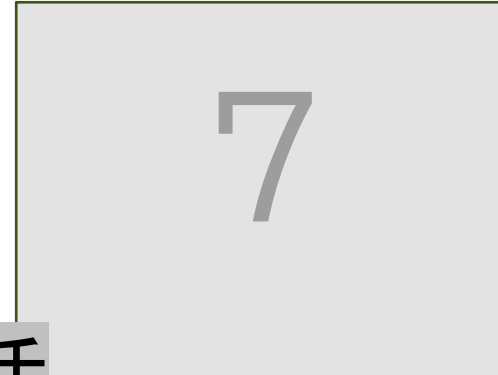
高齢者福祉分野全体の振り返りとする

教室内グループ配置
数字:グループ番号
英文字:
内容のまとめ

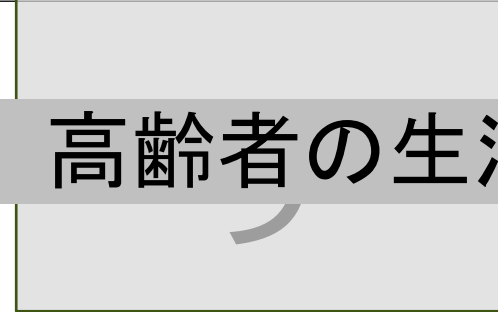
A 高齢社会の現状



B 高齢者の生活



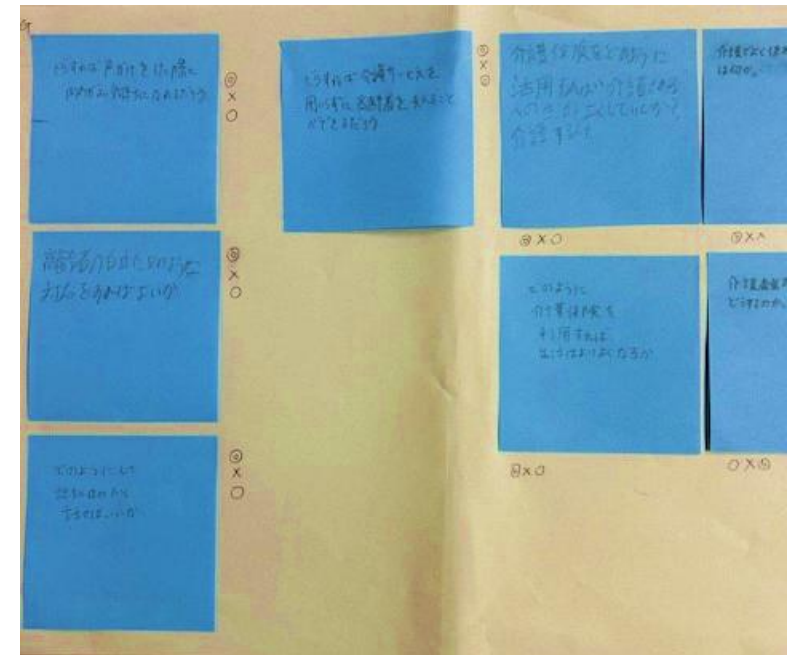
C 高齢者の生活を支える



授業展開②グループで問いを決定

- 問いをふせんに書き写す(一人2枚)
- B4用紙に貼り付けて整理

- どんな問いがあるか共有する
- 重要な問いはどれか？



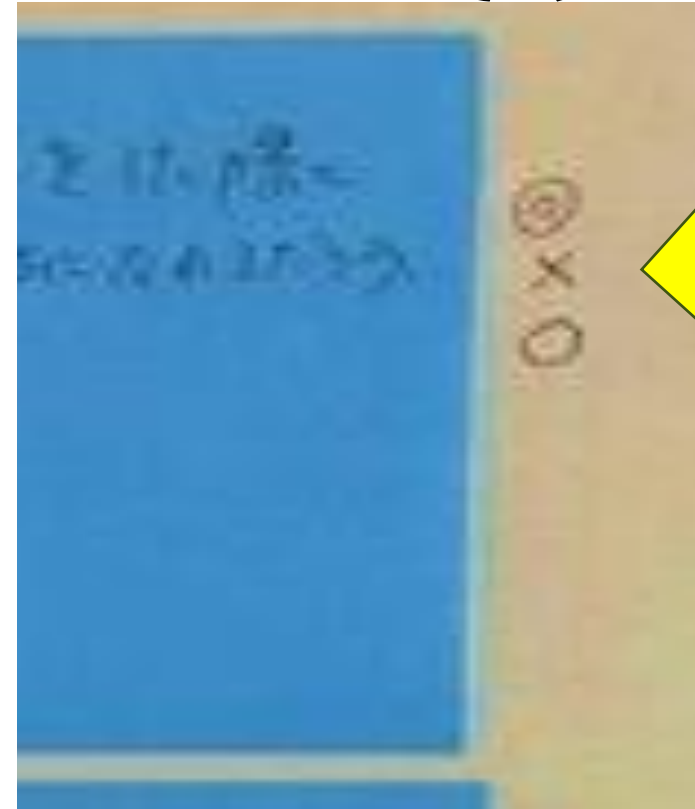
問いチェック！ ◎ ○ △

①自分たちで調べることができそうか

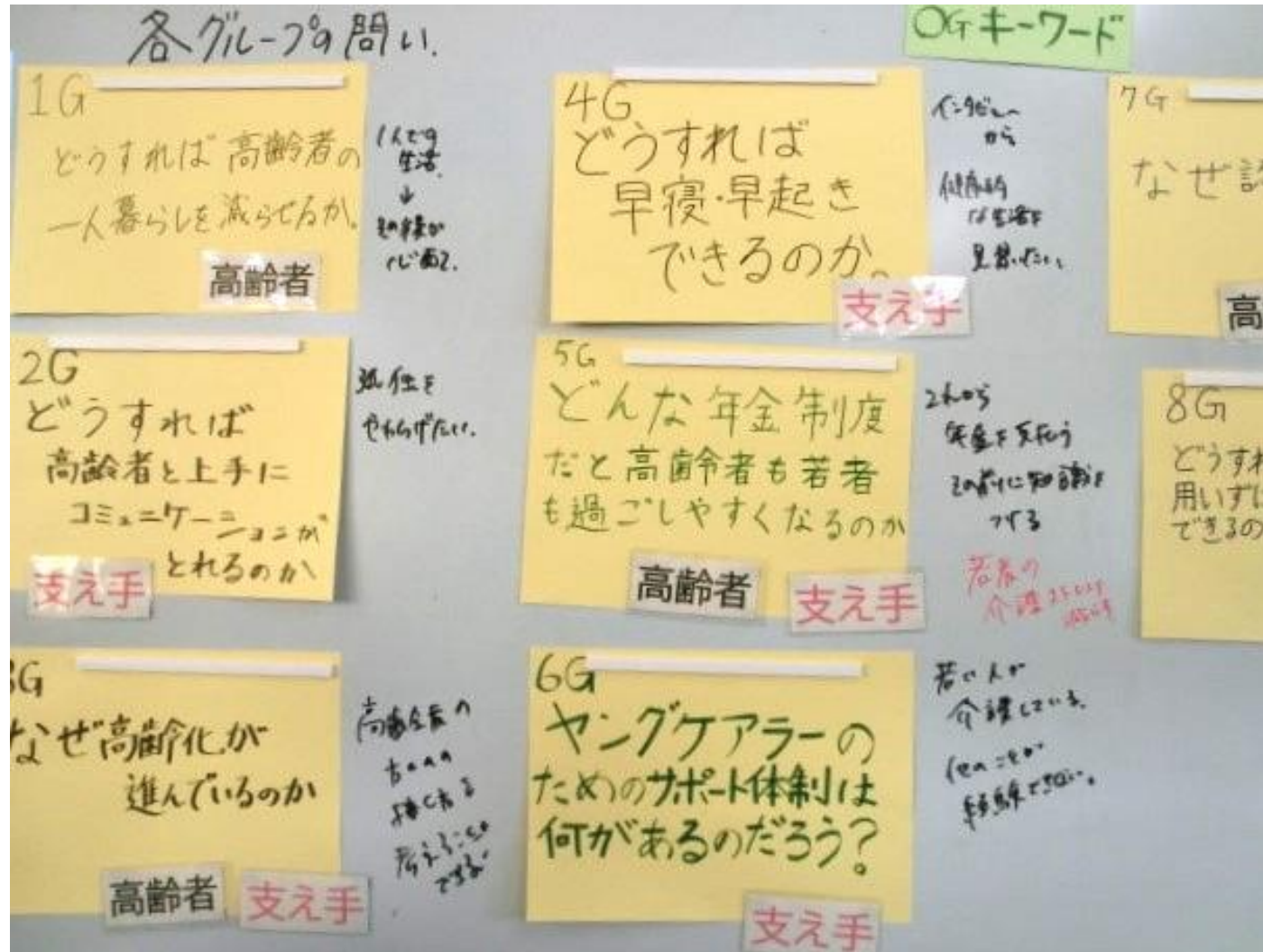
②興味があるか

③社会の役に立つか

全て×の班あり
興味を持たせる授業展開
が必要



授業展開③グループの問いを発表



授業展開③

グループの問いを発表

2G

どうすれば高齢者と上手にコミュニケーションが取れるのか



理由：高齢者の孤独を和らげたいから

具体的な問い

高齢者自身に関すること

1G どうすれば高齢者の一人暮らしを減らせるのか **生活が心配**

高齢者を支える側(自分たち)に関すること

4G どうすれば早寝早起きできるのだろうか **見習いたい**

5G ヤングケアラーの為のサポート体制は何があるのか **同世代**

6G どんな年金制度だと高齢者も若者も過ごしやすくなるのか **払う立場**

8G どうすれば介護サービスを用いずに高齢者を支えることができるのか **社会に影響を与える**

課題を大きく捉えた問い

自分事になった！

高齢者自身・支え手両方に関すること

3G

なぜ高齢化が進んでいるのか

理由：高齢者の方々との接し方を考えることができる

7G

なぜ認知症になるのか

理由：認知症にならないための方法を知ることができる

授業展開④他のグループの視点から考える

- 緊急の課題は何か
- 高校生の私たちの課題はなにか

改めて考えてみる

自分が重要だと思う「問い」

⇒ **新たな課題の発見（視点を広げる）**

各グループの発表を聞いて考えたこと

生徒の意見

「なぜ認知症になるのか」

知ることができれば高齢者の認知症が予防でき、
自分に対しても対策ができる

「どうすれば高齢者と上手にコミュニケーションがとれるのか」

祖父や高齢の方と話すとき、相手に安心感を与えたい

授業展開⑤課題の整理 問いのキーワード化

高齢者の一人暮らし

今の年金制度

ヤングケアラー

認知症

実践後の評価結果

態度③「問い」を知ることにより新たな高齢者福祉の課題を発見している

	学習活動における具体の評価規準(B)	「十分満足できる」と判断される状況(A)
評価	他のグループの「問い」を知ることにより、新たな高齢者福祉の課題を発見している。	他のグループの「問い」から、新たな高齢者福祉の課題について発見し、 <u>高校生の立場からの関わり方など、自分事と捉えている。</u>
生徒の状況	30% <ul style="list-style-type: none">・記述している課題の種類が増えている。・緊急の課題が何か考えている。・他の班の「問い」から気づきがある。	70% <ul style="list-style-type: none">・高校生の自分たちもどのように高齢者を支えることができるのか考えている。・今から実践することを考えている。
記述例	<ul style="list-style-type: none">・どうすれば高齢者と上手にコミュニケーションがとれるのか→高齢者の気持ちを考え、どのように接するのが正解なのか知る必要がある。・どうすれば一人暮らしを減らせるかや年金制度、ヤングケアラーの問題は早めに取り組んだ方が良いと思った。・どうすれば一人暮らしを減らせるか→高齢者の孤独感を減らし、一人暮らしの中の心配をなくすことは大切だと思いました。	<ul style="list-style-type: none">・なぜ認知症になるのか→知ることができれば高齢者の認知症予防ができ、自分に対しても対策ができる。・どうすれば高齢者と上手にコミュニケーションがとれるのか→祖父との会話や街中で高齢の方とお話しする時に相手の方に安心感を与えられるか知ることは、今と今後の自分にすごく役立つ。



研究授業を終
えて

✓グループ活動がうまく機能して
いた 役割分担:司会 書記 発
表 シークレット

✓生徒が考え続ける授業だった

✓生徒の考えが広がったので、そ
こからの発展があると良かった

超高齢社会を自分事とし、 課題を解決しよう

- 1.グループで決定した「問い」に対して資料を用いて解決策を考える
 - 2.グループごとに発表する (Meta Mojiシート利用)
 - 3.自分事と捉える
 - もっとも重要な課題だと思うこと
- 解決するために実行することを3段階で深めていく

学校司書と協働授業
資料準備 学校司書



今、自分にできることは何か

生徒の意見

3段階掘り下げて自分事とする

2.最も重要な課題だと思うこと

平均寿命と健康寿命の差の広がり

3.課題を解決するために実行することを3段階で深めていこう

① 生活習慣病の予防→バランスの良い食事

② ①のようになる（する）ためにはどうしたらよいか

塩分の摂取量を減らす→一気にではなく段々と

③ ②のようになる（する）ためにはどうしたらよいか（自分が実行すること）

減塩の食品を使ったり、家で作る料理にも塩を使いすぎない

↑今できることはこれ！！ 私たちの未来を拓いていこう

減塩料理

2.最も重要な課題だと思うこと

私たちができる高齢者との関わり方

3.課題を解決するために実行することを3段階で深めていこう

① 高齢者の方が安心して過ごせる

② ①のようになる（する）ためにはどうしたらよいか

高齢者の方に対する接し方を知る

③ ②のようになる（する）ためにはどうしたらよいか（自分が実行すること）

目線を合わせる 優しい口調で話しかける


↑今できることはこれ！！ 私たちの未来を拓いていこう

優しく話す

34

IV まとめと今後の課題

成果① 生徒の変容



事後アンケート
より

高齢者がどんなことに困っているか分かった

98%

高齢者が困っているときに声をかけたり助けたりできる

87%

自分の高齢期の生活や社会を考えることができた

98%

成果①生徒の感想(学びの証拠)

育てたい生徒像

1.他者に関心をもち、今必要なことに気づく生徒

2自分から行動し、人を助ける力をもつ生徒

授業の2日後ぐらいに、車いすの方が電車に乗っているところを見た。

私も道を譲ったり、優しく声をかける様になりたい

認知症などを調べたり高齢の方との接し方を考えたりなどできることがたくさんある。自分事として考えながら常に生活したい

祖母は階段がきつかったりするので、洗濯物を2階まで取りに行ったりしたい

これから道案内をしたり高齢者と接する機会は増えるので、コミュニケーションスキルを、介護介助の技術を身に付けておく

成果② 授業方法について

1. ロールプレイング

立場を変えて考えることで課題を自分事として捉えた

生徒の感想 高齢者側の気持ちを知ることができる

2. 人生の先輩インタビュー

高齢期の困りごとや思いが具体的に分かった

生徒の感想 一緒に山に登ってきます！

3. 振り返りシート

毎時間「問い」を立て、課題意識が高まった

学びを言語化し、問いを深める思考が定着した

成果③ 学校司書との協働による学びの深化

今年度の取組み

- ・高齢者福祉分野の研究資料問い合わせ
- ・職業調べ(なるにはブックス準備 掲示物作成)
- ・絵本の読み聞かせ(保育基礎用絵本と共に整備)
- ・郷土料理調べ(県図書館より借用)
- ・問いつくりワーク →問いつくりのプロセスを学ぶ
- ・問いの解決策を探る→各グループに応じた資料



今後の課題

問い立てができるような具体的な
授業の工夫

問いの解決策を
実践する力

校内探究活動との連携